



第二十四回

# 能青葉仙台

喜多流 能

枕慈童

人間国宝

友枝 昭世

和泉流 狂言 栗焼

人間国宝

野村 万作

喜多流 能

養老

佐々木 多門

「枕慈童」  
友枝昭世 所演

とき 2022年5月14日(土) 開演 13:30 開場 12:45

ところ 電力ホール(仙台市青葉区一番町3丁目7-1)

入場料 S席 11,000円 A席 8,500円 B席 6,500円 学生席 2,500円 (全席指定・税込)

※未就学児入場不可。 ※チケットは左右1席を空けず、通常の座席位置で販売します。

一般発売 3月4日(金) 10:00~

■主催/仙台青葉能の会、(公財)仙台市市民文化事業団、河北新報社 ■共催/電力ホール

◆協力/仙台市博物館、中尊寺、(公財)瑞鳳殿、NHK仙台放送局、伊達家伯(かはく)記念會、白石市古典芸能伝承の館「碧水園」

◆後援/宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市能楽振興協会、TDC東北放送、仙台放送、三ツギテレビ  
Khb 東日本放送、Date fm、松井建設株東北支店

プレイガイド 藤崎、仙台三越、仙台市市民文化事業団、チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード 510-983)

河北チケットセンター(電話受付のみ) ☎022(211)1189 ※10:00~14:00 土・日・祝休

※学生席は河北チケットセンターでのみ販売。 ※車椅子で鑑賞をご希望のお客様は河北チケットセンターまでお問い合わせください。 ※延期・中止の場合を除き払い戻しはできません。

お問い合わせ 河北新報社事業部 ☎022(211)1332 ※10:00~17:00 土・日・祝休

※伊達家より家紋使用許可済み

●本公演は、政府ならびに関係機関によるガイドラインにもとづき、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じた上、開催します。

※会場内では常時マスクを着用してください。 ※入場の際、消毒・検温を実施します。検温で基準値(37.5℃)を超える体温の方は入場をお断りします。

※体調のすぐれない方はあらかじめ来場をご遠慮願います。 ※チケット右側の半券にある記入欄にご来場者様の氏名、電話番号を事前にご記入の上、ご来場ください。

※お預かりした個人情報は、新型コロナウイルス感染者発生時、公的機関へ提供する場合があります。また、情報は厳重に管理・保管し、公演終了後1ヶ月程度にて適切に破棄します。



※伊達家より家紋使用許可済み

# 第二十四回

# 能葉青台仙

## 献香之儀

仙台伊達家十八代当主 伊達 泰宗

開演 午後一時三十分

シテツレ・男 友枝 真也  
後シテ・山神  
前シテ・老翁 佐々木多門

一時四十五分

喜多流

能

## 養老

ヨウロウ  
ワキ・勅使 森 常好  
ワキツレ・従者 舘田 善博

アイ・里人 石田 幸雄

後見 友枝 雄人  
金子敬一郎

大鼓 國川 純 太鼓 小寺真佐人  
小鼓 鶺鴒澤洋太郎 笛 松田 弘之  
地謡 佐藤 陽 狩野 了一  
大島 輝久 大村 哲定  
内田 成信 塩津 茂  
塩津 圭介 長島

——休憩二十分——

和泉流

狂言

## 栗焼

くり やき  
太郎冠者 野村 万作

仕舞 飛鳥川  
あすかがわ

佐々木宗生

主 中村 修一

後見 破石 澄元

地謡 佐藤 寛泰  
内田 成信  
栗谷 明生  
塩津 圭介

喜多流

能

## 枕慈童

まくらじどう  
シテ・慈童 友枝 昭世  
ワキ・勅使 森 常好  
ワキツレ・従者 舘田 善博

後見 佐藤 章雄  
狩野 了一

大鼓 國川 純 太鼓 小寺真佐人  
小鼓 鶺鴒澤洋太郎 笛 松田 弘之  
地謡 佐藤 寛泰 長島 茂  
金子敬一郎 栗谷 明生  
友枝 雄人 香川 靖嗣  
大島 輝久 中村 邦生

終演予定 午後四時五十分頃

### 能「養老」(ようろう)

雄略天皇の御代、美濃の国(今の岐阜県のあたり)の滝から葉の水が湧き出たというので、勅使が遣わされます。勅使は泉を発見した若者とその老父と出会います。由来を聞くと、親孝行な若者が飲んだ滝の源泉の水があまりに爽やかだったので汲んで帰り、老いた父親にすすめたところ、見違えるように若々しく元気になったのだといひます。そのことから滝にも養老の名がついたのだと老人は語り、さらに霊水を汲んで勅使に捧げて立ち去ります。

そのうち空から妙なる音楽が聞こえてくる中、山の神が出現し、爽快な神の舞を舞って泰平の世を祝福するのでした。

### 狂言「栗焼」(くりやき)

太郎冠者は、主人から貰い物の栗を客に振舞うので焼くよう命じられます。苦勞しながらもなんとか焼き上げ皮をむくと、見れば見るほど美味そうな栗ばかり。つい手が出てしまい、結局全部平らげてしまった太郎冠者は、主人に言い訳をしますが…。

### 能「枕慈童」(まくらじどう)

古代中国の魏の文帝の世。葉の水が湧き出ている源を探るために、勅使が派遣され、遠く遙かなる酈縣山へと赴きます。その山奥に分け入ると、菊が咲き乱れる仙境があり、美童子が庵に一人住んでいたのです。

その童子は、魏よりも七百年前の周の穆王に愛され仕えていた慈童という者でしたが、誤って王の枕を踏み越えてしまった罪により、この山に流罪となっていたのです。流される時、不憫に思った王が法華経の妙文(四句の偈)を書き添えた枕を下賜されたので、慈童は山の菊の葉に詞を写しておいたところで、その葉の露滴が不老長寿の薬となつて七百年間も老いを知らない身となつたのです。慈童は、法華経の功德と由来を説きながら美しい舞を見せて、寿命を帝に捧げて祝福し、やがて庵へと帰っていくのでした。